

誰もが抱える悩みを。ハッと解決！

福田貴一先生の



早稲田アカデミー
千葉ブロック統括責任者
福田 貴一

福が来るアドバイス

思考力の効果的な身につけ方とは？

中学受験は子どもだけではありません！

中学受験をする目的

まず、中学受験することを決めれば、合格発表の日まで、親子共々、受験中心の生活スタイルになることを覚悟してください。言うまでもありませんが、子どもにとっては、塾の授業や家で宿題をする分だけ遊ぶ時間や家族で過ごす時間が減ります。ときには難度の高い学習に苦しむこともあるでしょう。また、保護者の方々の金銭的な面はもちろんのこと、週に数回のお弁当づくりや送り迎えなど、肉体的にも精神的にも想像以上の負担がかかります。

では、なぜ公立中学校があるなか、これほどまでの覚悟をしてまで、首都圏では多くのご家庭が中学受験にチャレンジされるのでしょうか。その理由は大きく2つあります。ひとつは、子どもが将来選ぶことのできる選択肢を増やすため、もうひとつは、将来的に必要な「思考能力」を身につけさせるためです。この「思考能力」とは、現在、多くの大学が学生に求める問題解決能力や問題発見能力、読解力などのことで、実際、中学受験においても、超難関と言われる学校では

具体的な目標で、やる気「アップ」！

中学受験にチャレンジし、無事に第三志望校への合格を勝ち取るためには、目標設定がカギになります。

しかし、小学校3、4年生の子どもの自分自身で目標を定めることは困難です。まずは、保護者の方々が何か具体的な目標を設定してあげましょう。その目標は「将来、●になる」といったものでも構いません。なりたい職業がなければ、「人の役に立てる人間になりたい」などでも良いでしょう。とにかく、「将来は自分も大人になるんだ」といったイメージを抱かせるのです。そのうえで、大人になるためにはある程度の段階を経ていく必要がある。中学入試を経験すれば「思考能力」が身につく、と乗り越えるべきハードルのようなイメージを中学入試に与えるのです。

具体的な目標を持つことができれば、あとはそれに向かって努力するだけです。しかし、目標のクリアが簡単であれば、それだけの力しか身につけません。これ

以前は高学年からスタートした中学受験準備も、今では低学年から始めるご家庭も多くなり、小学校5年生からでは遅いと言われるほどになりました。その結果、子どもたちが受験と向き合う期間は長くなり、無事に第三志望の中学校に入学するためには、保護者の方々の協力がこれまで以上に欠かせないものになってきました。

では、夢や目標に向かって歩き始めた子どもたちにとって、接すれば、効果的なサポートができるのでしょうか。このことについて考えてみましょう。

学力を伸ばすために必要なこと

走ることが得意な子、音感に優れた子がいるように、「勉強に向いている子」がいることも事実です。やはり、超難関と言われる中学校は、「勉強に向いている子」が本気で努力してこそ入学できる学校なのかもしれません。しかし、そんな一部の学校を除けば、どの私立中学校も努力さえすれば合格することは可能です。

このように述べると、「でも、うちの子は成績が悪いから…」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、それは大きな間違いです。中学入試の場合、精神的な成長度合いというファクターがとて大きく影響し、この精神的な成長は、中学受験に向けた努力のなかで培われるからです。だからこそ、保護者の方が「うちの子は…」というのではなく、子どもを信じ、そして、成長することを期待してあげてほしいのです。

中学受験を成功させるカギは保護者と塾の連携

中学受験を成功させるためには、受験する目的を理解し、目標を定め、そこに向けて学力を伸ばすことが必要です。しかし、これを実現させるためには、子どもたちの努力が必要なのはもちろんのこと、保護者と塾の連携が不可欠になります。できれば、保護者の方々は「塾に子どもを預けている」と丸投げするのではなく、塾の考え方や指導方針を理解し、そのうえで全面的に講師を信頼し、歩調を合わせる、このことが子どもを伸ばすうえで大きなカギになると考えられます。

その理由としては、子どもたちに「やる気」を出させるうえで、塾の講師と保護者の方で歩調が合わなければ、なかなか上手くいかないからです。たとえば、夏休みは、マックスのやる気で勉強に取り組みせようとした場合、ゴールデンウィークから7月頃までの期間は、たとえ宿題の完成度が下がったり、中だるみをしていたとしても、塾の講師があまりうるさく言うことはありません。これは、この期間を夏休み前の息抜きとして考えるからです。しかし、そのタイミングで保護者の方が「宿題をきちんとやらない」「と注意してしまったり、ゆるんだ糸が気に張ってしまい、塾の講師が夏休みに入ってからやる気モード全開にさせようとする、突然糸がブチッと切れてしまう…。このように、お互いズレを作らないためにも、



お互いズレを作らないためにも、ぜひ

ひ塾の講師とは頻りに連絡を取り合っていたかと思えます。

さらに、保護者と講師の連携が上手くいけば、子どもたちの些細な変化も見逃すことがなくなり、たとえば、小学校3、4年生の場合、また中学受験をする目的が理解できていないこともあり、模試や小テストで良い点数を取ることだけを考える子がいます。そんな子どもがやっとながちなのがカンニングです。日頃の授業態度と点数を比較すれば、塾の講師が見るとすぐにカンニングしたことがわかります。しかし、保護者の方はカンニングしたとは思わず、子どもが良い成績を取れば「頑張ったね」と無条件にはめるでしよう。子どもはそのことがうれしくて、再びカンニングをするかもしれません。子どもに悪気はないのですが、好ましいことではありません。また、宿題は持つてくるけれども、解答を丸写ししているだけ…。これも保護者の方にはわかりにくいはず。このように子どもの変化が見られた場合、保護者と講師の連携が取れていれば、すぐに情報交換し、子どもを指導することが可能なのです。

中学受験は子どもの努力だけでは乗り切ることができません。ぜひ、信頼できる塾に通わせ、そして、塾の講師と連携を取ることで、子どもたちの大きな夢をかなえたいですね。

ブログ 四つ葉Café 公開中！



小学校低学年からの中学受験
四つ葉Café
小3・小4
責任者
福田 貴一

中学受験に関するブログを公開しております。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関する様々な情報をお伝えします。また、お子様と一緒にチャレンジする写真サイズも公開しておりますので、ぜひ親子で楽しんでみてください。

詳細はホームページをご確認ください。 [早稲田アカデミー](#)

そして、学力を伸ばすためには、ぜひ、模擬試験(以下、模試)を有効に使うください。高校受験や大学受験の模試が定着している学力を確かめるテストであるのに対し、中学受験の模試は、学力を定着させ、成績を伸ばすために受けるテストです。つまり、勉強をしてテストを受ける、この繰り返しによって成績を伸ばすことができるのです。

ただし、中学受験の模試については、成績だけで「喜ぶ」「憂う」ことは厳禁です。もちろん優秀な成績を取り、成績優秀者一覧などに載ることを目標にするのは良いことです。しかし、あくまでも模試は学力を定着させるために受けるものであって、良い点数を取ることが目的ではありません。このように勉強すれば学力が定着するのかわるため手段として模試があり、努力した結果が成績となって現れるのです。